

■度会家行 伊勢神宮外宮の神官。80過ぎに、度会神道を大成し、北畠親房に影響与え、諸国勤王家の覚醒につながって行く。

わたらいいえゆき

北条時頼出家1256＝ 生。┐三禰宜度会有行の長子。家名を村松という。

北条時頼没・1263＝ 7歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1265＝ 9歳：

北条時宗執権1268＝12歳：

元寇文永の役1274＝18歳：

元寇弘安の役1281＝25歳：

沙石集・ ・ ・ 1283＝27歳：

北条時宗没・1284＝28歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1292＝36歳：

平禅門の乱・1293＝37歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1296＝40歳：内宮に対抗して外宮が皇太神宮と称したため起った、いわゆる「皇字沙汰文」事件には、当時権禰宜であった家行が行忠の代弁者として上京している。これによって度会神道の創唱者とされる行忠の信任は厚く、早くから行忠の後継者としてその学才が認められていたことが知られる。

後二条天皇・1301＝45歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1306＝50歳：┐度会行忠の死没による欠員で禰宜に昇格し、家行と改名。以後累進，

・ ・ ・ ・ ・ 1310＝54歳：

後醍醐天皇・1318＝62歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1319＝63歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1328＝72歳：

鎌倉幕府滅亡1333＝77歳：

南北朝分裂・1336＝80歳：*建武の新政が破れて尊氏が光明天皇を擁立し、後醍醐天皇が吉野へ遷幸すると、内宮禰宜荒木田興時らとともに田丸城に拠り、北畠親房を迎えて幕府軍と戦った。家行は、師行忠または常昌らの神官としての職務の枠の中での実践論を一步進め、南北朝内乱という時代背景の中で、国体倫理の主張をみずからの軍事行動という形で実践した。こうした行動をとらせた家行の思想には朱子学の影響が認められ、密教的土壌の中で行忠にはじまった神道論に新しい方向を加えることになった。

・ ・ ・ ・ ・ 1337＝81歳：

・ ・ ・ ・ ・ 1341＝85歳：┐一禰宜(長官)となり、南朝から従三位に叙せられた。

五山制定・ ・ ・ 1342＝86歳：幕府軍の高師秋・仁木義長らに攻撃されて城は落ちたが、その後も，

・ ・ ・ ・ ・ 1343＝87歳：*関東の経略に失敗して海路吉野に向かった北畠親房を尾張宮崎に迎えて、幕府の監視のなかをひそかに吉野へ導くなど、伊勢南朝勢力の中心として活動した。家行の神道論は、伊勢に迎えられた北畠親房が、著者家行自身がとくに秘本とした「類聚神祇本源」の神鏡篇を手ずから書写したことなど、親房の思想に大きな影響を与えたことは有名である。朱子学の出身である親房が、家行の神道論から強い影響を受けたのは、この共通した学問基盤があったからだといえよう。

・ ・ ・ ・ ・ 1347＝91歳：楠木正行と呼応して多気と長谷城に拠って兵を集め，

・ ・ ・ ・ ・ 1348＝92歳：尾張宮崎へ出陣したが、正行が四条畷で戦死したため南朝による政権統一の構想は挫折、伊勢に帰った。

観応の擾乱始1350＝94歳：┐一貫した南朝方の行動、とりわけ制止の勅命を無視した前年の軍事行動を北朝から讐められ、一禰宜を解任された。しかし、南朝正統を主張して北朝による解任を認めず、高齢の身をもってみずから上京して弁訴し、なおその後も一禰宜領への課税などを行っている。

・ ・ ・ ・ ・ 1351＝95歳：┐没した。

著書は前述の「類聚神祇本源」のほか、「瑚漣集」「神道簡要」など、いずれも神道の基本経典とされている。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，